第２９話
網走南部森林管理署
中川　龍生

「ハン！」

採用１年目、網走南部森林管理署網走森林事務所に赴任して初の現場業務。ドキドキしながら野帳を持った私に森林官（上司）が最初に言った言葉です。

初手から「ケヤマハンノキ」を「ハン」と省略して伝えてくるあたり、これが森林事務所の洗礼か。そう思ったのも今では懐かしく感じます（森林官は本当に良い方でした。）。

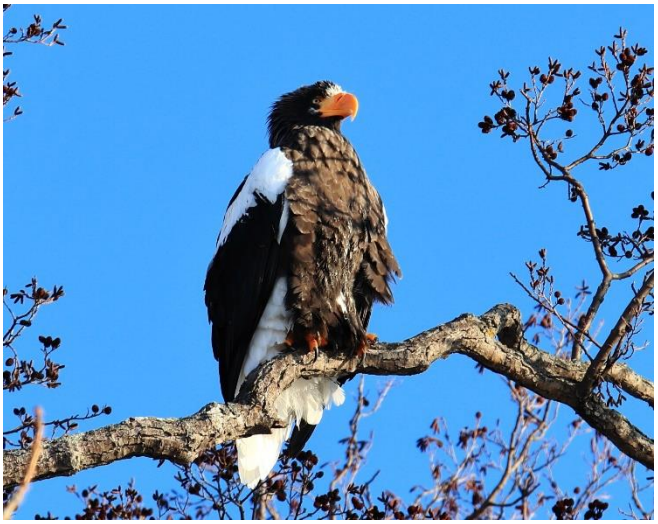
そんな森林事務所のあんなことやこんなことを紹介していきます。

【網走の国有林】

私が勤務している網走森林事務所は、網走市内にある国有林を管轄しています。

網走周辺には、２市５町にまたがる網走国定公園があり、管轄区域の一部は国定公園内に位置しています。

そのため、希少な野生動植物にお目にかかることもしばしば。春は様々な花が咲き、夏は昆虫、秋はキノコ、冬には渡り鳥がやってくるなど、年中飽きることはありません。



オオワシが渡ってきます

【国定公園なのに・・・】

自然豊かな網走の国有林ですが、市街地からは近く、特に近い能取（のとろ）岬周辺の国有林は車で10分あれば行くことができます。

そんなこともあってか、国有林内はカラフルな仲間たちであふれています。空き缶や靴、タイヤや粗大ごみなど、森に入ると簡単に見つけることができます。ホタテの貝殻が落ちていると、さすがオホーツクとも思いますが、あの異臭は心地いいものではありません。

初めてこの森に入った時には、私の地元、愛媛の山とは比べ物にならないほどスケールの大きな自然に、さすがは国定公園だと思いました。一方で、国定公園内にもかかわらず、こんなに不法投棄があるのかと、正直がっかりしました。

調査等で山に入る際は、帰り際に手に持てる程度のごみを拾っています。しかし、森林官と私しかいない事務所で、仕事の合間に拾っている程度では一向になくなりません。そういえば、ＭＶＰを獲った某メジャーリーガーは、徳を積むためにごみ拾いをしているとテレビで言っていました。私も毎日徳を積んでおります。野球経験も無いのに、いつかホームランが打てる勢いです。この記事を見ている自然好きのみなさんも、森に入った時に空き缶の一つや二つ拾っていただけると大変ありがたいです。

【巡検はアドベンチャー】

次は大好きな業務の紹介です。網走森林事務所で最もヘビーな業務。それが巡検です。巡検とは、民地と国有林の境界にささっている境界標（石）を見つけ、異常がないか見回る仕事です。この事務所では、年間約1,100個の境界標、距離にして約68kmの巡検を行っています。そのほとんどが畑を守る防風林なのですが、想像以上に起伏があり、いくつもの沢を越えなければなりません。足元に注意しながら沢を渡り、斜面を登ったり下ったりしていると、野山をかけていた少年のころを思い出します。少年心をくすぐられるような仕事がしたい、そんな人にうってつけの業務です。

【冬の修行】

境界標が雪に埋まる冬は、巡検をするにはハードなので、主に冬に地況林況調査をするのが今の事務所のスタイルです。この調査では、対象とする森林を評価し、今後の森づくりの方法を検討します。木の直径や樹種名、樹高などを調べるのですが、経験の浅い私には樹種の判別が非常に厄介で、冬に葉が落ちるとさっぱりわかりません。そんな時に私が使うのが冬芽です。樹皮だけではまだ見分けがつかないので、冬芽を収集して何とか森林官について行っています。しかし、森林官は個々の樹種だけでなく、森全体を見て今後の森づくりを判断しているため、求められる能力の高さを日々実感しているところです。

【クマよりマダニが嫌いです】

事務所の業務は基本的に山で行うことが多いですが、北海道の山といえば、やはりヒグマが危険というイメージが強いかと思います。もちろんクマの危険もありますが、それよりも身近な危険は意外とたくさんあるものです。中でも私が嫌いなのが「マダニ」です。５月ごろに出始め、６月にピークを迎えると、毎日のように服につくようになります。マダニはライム病や回帰熱などの病気を媒介するため、咬まれた場合は感染症予防のため医療機関を受診することとなっています。

服についていたマダニ
（カッコイイタイプ）

巡検ではこんな沢をいくつも渡ります

My 冬芽コレクションで修行中

大きいものは、もはやカッコイイですが、小さいものは気づけないほど目立たなかったりします。その上、私はマダニに好かれるようで、森林官には全然つかないのに私にはついていることがよくあります。今年は１度咬まれてしまいました。徳を積んでも運気は上がらないのかもしれません。みなさんも山に入るときはくれぐれもお気を付けください。

【最後に】

脈絡の無い文章でしたが、最後まで読んでくださりありがとうございました。色々と紹介しましたが、ここには書ききれないほど現場では多くの気づきがあります。その気づきを自分の成長へと昇華させられるよう、努力していこうと思います。